

# 責任投資グループのエンゲージメント

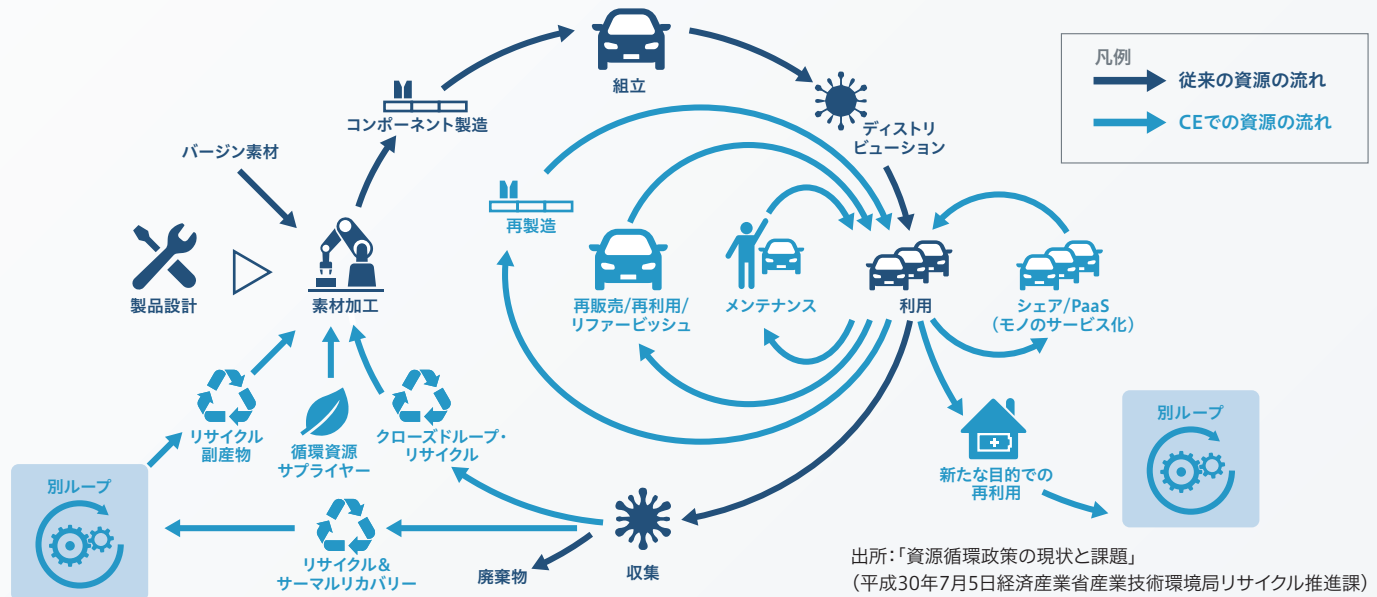
## サーキュラーエコノミー

循環型社会への貢献が企業価値向上に繋がるよう対話を積極化

### エンゲージメントの全体像

- サーキュラーエコノミーに関する企業と投資家の認識共有の醸成、企業価値向上に資する取組みとしてのアピールの重要性について、重点的にエンゲージメントを実施
- 3R（削減、再利用、回収リサイクル）の観点にとどまらず、シェアリング、サブスクリプションなど多面的なビジネスモデルに関してのエンゲージメントを開始
- 企業がサーキュラーエコノミーで利益を獲得し競争優位性を確立するために、政策的処置が必要であり、官公庁などとの連携も重視

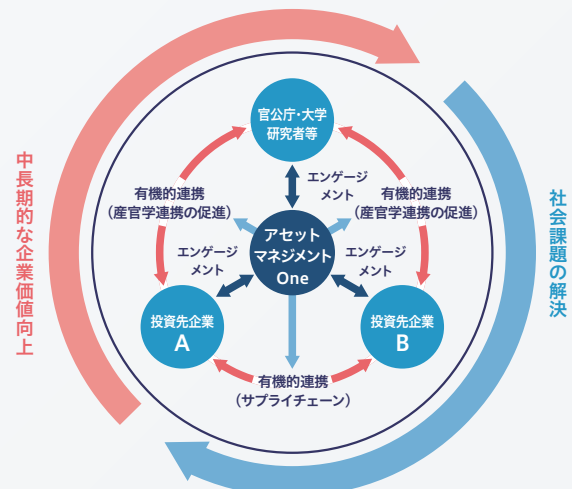
### 〈問題意識〉ビジネスの段階に応じたサーキュラーエコノミーの実現



### 〈対話方針〉企業価値向上や市場全体の底上げに向けた独自の取組み

		対話の視点
情報開示		サーキュラーエコノミーに関する認識の共有化、効果的な情報開示
サーキュラーエコノミー	設計	軽量化など3Rに適した設計、長期使用可能な製品・サービス設計、環境配慮型素材の利用
	生産	生産ロスの削減や副産物の再利用、需要に応じた供給徹底による販売ロス削減
	廃棄	産業廃棄物の削減やリサイクルの推進、適切なリサイクル手法の選択
	再生材利用	使用済み製品、廃棄物や副産物の残存価値を生かしたビジネス
	利用	リースやシェアリング等を利用した資産の有効利用、IOTによる資産の稼働率向上や長期利用の実現
有機的な連携		経産省、環境省など官公庁の分科会などへの参加や対話などポリシーエンゲージメントの積極化

### 幅広いフィールドで有機的な連携を強化





## エンゲージメント事例紹介

設計 生産 廃棄 情報開示	汚染と 廃棄物 (E 5)	小売り A社	具体的な取組み状況を確認、同業他社比較での情報発信やアピールの弱さを指摘 2050年に向けた高い数値目標設定など、施策実行への決意の強さを確認。食品 廃棄ロス対応や鮮度長期化の工夫、プラスチック対策、再生ペットボトル 使用緑茶の発売など様々な取組みや、諸施策の経済効果計測を含めたアピ ール強化を促した。	マイルストーン: 課題着手
生産 情報開示	汚染と 廃棄物 (E 5)	ガラス土石 B社	積極的な廃棄物・副産物の受入れとそのESG情報開示について対話 製品製造における廃棄物・副産物の使用拡大という当方の課題認識に対して、 更なる利用率引き上げで、品質・コストの両立を図っていく方針を確認。同時 に、KPIの設定や環境配慮型商品としてアピールしていくことを促した。	マイルストーン: 課題着手
廃棄	汚染と 廃棄物 (E 5)	非鉄金属 C社	「循環型社会の構築に寄与する製品・サービスの提供」の実効性について対話を実施 将来に向けてのリサイクルビジネス拡大には、海外展開が重要。EUなど海 外と日本では循環型社会形成に対する考え方が大きく異なっていることから 両にらみの対応を実施中で、制度面の課題が多い点を確認し、更なる取組 み強化を要請。	マイルストーン: 課題着手
再生材利用 廃棄	汚染と 廃棄物 (E 5)	化学 D社	ライフサイクルを通じた循環型モデルを構築中、具体的な進捗状況を確認 主力商品が、ごみ焼却における熱回収効率向上の阻害要因になるなど大きな 社会負担に。実証検証では、焼却との比較で温室効果ガスが87%削減可能で 原価率も低下。社会課題解決と企業価値向上が両立している事例であり、回 収面の課題解決を含めた早期事業化に向けた取組み強化を要請。	マイルストーン: 計画策定
利用 情報開示	CSR/ESG マネジメント (ESG1)	不動産業 E社	サーキュラーエコノミーを軸としたESG情報開示について対話 「当社の時間貸し事業はシェアエコノミーであり、サーキュラーエコノミー の観点でアピールすべき」との指摘には非常に納得性があるとの見解を受領。 社長の問題意識も高く、ESG専担者を配置して対応を開始することを確認。	マイルストーン: 計画策定
有機的な 連携	—	官公庁	官公庁などと有機的に連携し、効果的なポリシーエンゲージメントを実施 サーキュラーエコノミーに関して、環境省とのエンゲージメントや、経済産 業省、環境省主催のサーキュラー・エコノミー及びプラスチック資源循環 ファイナンス研究会への委員の派遣など、投資家代表として政策策定への積 極的な意見表明を実施。	—

## 評価・今後の対話方針等



- 昨年度より、重要な課題としてサーキュラーエコノミーに関するエンゲージメントを開始、投資先企業  
の取組み意識の高まりを確認しています。
- 国内外の政策動向を勘案しながら、取組みを企業価値向上に繋げ、リスクリターンの観点から説得力の  
ある情報開示を実施する重要性について課題共有を進めています。
- 投資先企業の多面的なビジネスモデルに関するエンゲージメントや、有機的な連携を通じたポリシー  
エンゲージメントの強化を通じて、循環型社会への貢献が企業価値向上に繋がるよう対話を実施して  
いきます。

### エンゲージメントの状況・今後の取組み

「汚染と廃棄物」に関するエンゲージメントでは、約9割以上の企業においてマイルストーンが課題共有(経営)以上となっており、経営の問題意識の高まりを実感しています。但し、課題着手や計画策定が8割を占めており、サーキュラーエコノミーへの取組みは緒に就いたばかりであるとの認識です。

#### 【E5:汚染と廃棄物】

1. 課題設定	0%
2. 課題提示	0%
3. 課題共有(担当)	7%
4. 課題共有(経営)	7%
5. 課題着手	43%
6. 計画策定	36%
7. 施策実行	7%
8. 課題解決	0%

